

成果の説明書

(氏名)井手 拓郎	(学部)地域政策学部
<p>1 重要事項</p> <p>(1) 研究活動</p> <p>日本学術振興会の科学研究費「基盤研究 C」(研究代表者)採択課題に関する研究として、群馬県内の 4 つの地域 DMO に調査を行った。現在、その調査結果の分析及び論文執筆を進めている。</p> <p>また、観光人材育成に積極的な北海道の取り組みを調査するため、2023 年 3 月に北海道観光振興機構及び北海道大学観光学高等研究センターを訪問し、それぞれの観光人材育成の取り組みを調査した。</p> <p>さらに、国内学会から査読依頼があり、1 本の論文査読を行った。</p> <p>(2) 教育活動</p> <p>観光産業論・観光まちづくり論・アーバンツーリズムという 3 つの講義を担当した。本年度が上記科目担当 3 年目であったため、前々年度・前年度の状況を踏まえてそれぞれ改善を行った。具体的には、講義内容のより一層の充実から、投影するスライド資料の見やすさの改善、配布用レジュメの記入しやすさの改善、記入欄の数の調整を行った。一方で、COVID-19 感染防止の観点から、履修者同士及び学生と教員の意見交換やグループワークについては、ほとんど行うことができなかった。これは今後の課題としたい。</p> <p>また、基礎演習・演習 I・演習 II という 3 つの演習、そして卒業論文の指導を担当した。基礎演習は、演習 I での専門的な研究活動に向け、研究姿勢、論文・レポートの書き方、地域調査にあたって必要なビジネスマナーなどを、学生同士の学び合い(輪読、ディスカッション等)によって習得を図った。演習 I は、グループ研究及び産学協働事業に注力した。グループ研究は所属学生を 3 班に分けて、兵庫県神戸市での調査合宿を行い、その結果をグループごとに論文にまとめた。産学協働事業については、基礎演習履修者も途中から参画する形とし、ゼミナール内において学年を超えた交流を図ることもできた。COVID-19 流行下にあっても、感染防止に努めながら調査合宿や産学協働事業のイベントを実施し、いかに工夫して問題解決を行っていくか、履修生は実践面からの学びを得ることもできた。演習 II は、卒業論文執筆のための文献研究から、フィールド調査の実施・結果の分析、そして論文執筆までのプロセスを所属学生間で共有し、各個人の研究でありながら、ゼミナール全体で研究を進めていく雰囲気づくりに努めた。それにより、各自の卒業論文執筆は順調に進んだ。学生・教員の意見交換も適宜行い、論文指導を行った。その結果、12 本の卒業論文が無事に完成へと至った。</p> <p>(3) 社会活動</p> <p>前述の通り、ゼミナール活動(基礎演習・演習 I・演習 II)の一環で、産学協働事業を行った。具体的には、東日本旅客鉄道株式会社高崎支社及び同・前橋駅と協働で、前橋駅起点の「駅からハイキング」を企画・実施した。大きなトラブルなく実施し、参加者をはじめ関係者から好評を得た。</p> <p>教員個人としては、シルクカントリー群馬プロジェクト実行委員会の「絹ラボ事業」に関し、応募内容の審査及び成果報告会の講評を担当した。さらに、一般社団法人下仁田町観光協会の DMO 事業推進検討会議の座長、南牧村観光協会設立検討委員会の委員長を拝命し、それらの会議・事業運営に継続的に関わっている。</p>	
<p>2 その他の事項</p> <p>特になし</p>	

3 次年度以降の計画・抱負

(1) 研究活動

科学研究費採択課題に関する研究調査を着実にを行い、その結果の分析、及び論文・報告書等の執筆を行っていく。

また、地域科学研究所の「地域リーダープロジェクト」に関する文献探索や調査実施を進める。

(2) 教育活動

講義科目においては重要事項で述べた課題に取り組み、履修者の学びがより充実するよう取り組んでいく。また、次年度は新設された「観光地域調査演習」を担当するため、その準備・実施を着実にやっていく。さらに、ゼミナール（演習Ⅱ、演習Ⅰ、基礎演習）において、学内での学習の充実はもちろんのこと、学外団体との連携プロジェクトやグループでの社会調査に取り組んでいく。さらに、履修者各自の卒業論文の執筆を適切に支援していく。

(3) 社会活動

重要事項で報告した社会活動に引き続き取り組み、各地域の活性化に貢献していく。